



## イタリアのデザイン思考を活かしたモノ作り

附加価値の高いモノを作って、高い値段をつけて世界市場で売ろう

技術分野分類 1651デザイン学

技術キーワード (3) 工業デザイン、

産業分類 すべて

内 容	概要	今やデザインは企業の付加価値の源泉となっています。これまで日本は世界で一番の品質のものづくりをしてきました。具体的には、技術機能面を重視した小型部品の分野で高品質を達成してきましたが、(部品ではなく)完成品のかたち(フォルム)の美しさでは、まだまだ改善の余地があります。簡単には廃れない美しいフォルム(形)を備えた完成品を創っていかないと世界市場では通用しませんが、その際、お手本となるのがイタリアのデザイン思考です。
	従来技術・競合技術との比較(優位性)	フェラーリやクルーザーといった超高級品を作るイタリアのデザイン手法を採用すれば、製品のクオリティを上昇させることができます。ある製品のかたち(フォルム)を決めるとき、①人文学的側面(美術や詩情)、②社会科学的側面(職人の熟練労働など)、③自然科学的側面(工学)の三つを同時に考慮することで、クオリティの高い「かたち」が実現できます。簡単には廃れない美観を備えた完成品を作るには、イタリアのデザイン思考を活かしたモノ作りが求められます。
	本技術の有用性	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単には廃れない、美しいフォルム(形)を創ることが可能。</li> <li>デザイン性の優れた製品は、世界市場で高い値段で売ることができる。</li> </ul>
関連情報 (図・表・写真等)		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>図1. イタリアのデザイン思考</p> <p>（Fratelli, 1988, p. 22より）</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>図2. 実っぽいダメな自動車デザインの例 —イタリア人の自動車デザイナーであるEnrico Fumagalliの仕事から—</p> </div> </div>
適用可能製品		車・家具・家電製品・自転車・船舶などの工業製品や各種サービス。
技術シーズ保有者	氏名 所属・役職	小山 太郎 全学共通教室・講師
技術シーズ照会先	窓口 TEL/FAX e-mail	中部大学 産官学連携推進課 0568-51-4852 (直通) / 0568-51-4859 kensi@office.chubu.ac.jp

■知的財産

■試作品状況

無

提示可

提供可

作成日 2018年9月10日